

違っていてあたりまえ

海外生活体験を通して感じた多文化共生

今回、ゆりのき台中学校で英語教師として勤務されているレン直子さんにインタビューをさせていただきました。レンさんの国籍は日本ですが、父は韓国人、母は日本人で、小さな時から日本以外の国を身近に感じられていたそうです。社会人になってからも、海外での支援活動や日本人学校で教えた経験があるレンさんのお話から、多文化共生について考えていきましょう。



▲レン 直子さん

ひとり異国の地へ

バンングラデシュでの体験

私は以前、ある講演会に参加したことがありました。そこでバンングラデシュを長年にわたり支援されているNGO（※2）の方が「今、バンングラデシュは大きな洪水で多くの死者が出ています。きれいな飲み水もなく、下痢で命を落とす子どもたちもいます。薬を現地へ運ぶボランティアを探しています」と言われました。バンングラデシュには行ったことはなかったのですが、子どもたちの顔が思い浮かびました。その場で「私が



▲洪水の被災地の様子



▲洪水の被災地の様子

いけるかもしれない」と言っていました。自分が薬を運ぶことで少しでも多くの子どもたちの命が救えるのなら行ってみよう。その時、私は何か使命感のようなものを感じていました。

スーツケースいっぱい整腸剤を詰めてバンングラデシュに一人で向かいました。バンングラデシュの首都ダッカでは現地のボランティアスタッフと2人で被災地に入り、必要な人たちに直接、整腸剤を配っていました。洪水の水も乾ききらず、劣悪な環境でした。「下痢の人はいませんか」と現地スタッフが呼びかけるとたくさんの方が集まってきました。生活に困っている人々を救うため、私たちがだけでなく多くの支援活動が行われていました。助け合い、支え合いながら生きるこの大切さを改めて考えさせられました。またそこで出会った子どもたちの瞳は美しく、たくましさを感じました。

※2 貧困、飢餓、環境など、世界的な問題に対して、政府や国際機関とは違う「民間」の立場から、国境や民族、宗教の壁を越え、利益を目的とせずこれらの問題に取り組む団体

違っていてあたりまえ

マレーシアで感じたこと

その後、私は3年間マレーシアの首都クアラルンプールの日本人学校で働く機会を得ました。

マレーシアはマレー系、中国系、インド系などたくさん民族からなる多民族国家です。日本人学校に通う子どもたちもさまざまで、海外赴任に伴い、家族でマレーシアに来ている子どもたち、マレー系、中国系の親をもつ子どもたち、マレーシアで生まれ、ずっとマレーシアで生活している子どもたち。学校では子どもたちの持つ、さまざまな文化が存在し、それを大切にしています。例えばお正月も、日本の「お正月」、マレー系住民の「ハリラヤ」、中国系住民の「春節」、インド系住民の「ディパバリ」と、年に4回もあります。マレー系の子どもの中には、イスラム教の教えにより断食を行う子もいます。



▲日本人学校の様子

誰もが自分たちの文化を大切に、周りの文化も受け入れ、互いに尊重し合いながら生活しているように感じました。みんなが違っていてあたりまえの生活です。何が常識で何が常

識でないのかもみんな違うので、考える必要ありません。そこで生活するのに大切なことは相手を理解すること、困った時はお互い様、声をかけ助け合うこと、だったように思います。マレーシアでもたくさんのお世話になりながら生活しました。感謝の気持ちでいっぱいです。

帰国して思うこと

私が日本人学校を希望した理由は、海外で生活する子どもたちの教育を通して、日本と海外をつなぐ国際性豊かな日本人の育成に直接関わりたいと思ったからです。また、海外での生活経験をもつ子どもたちが、日本に帰国してから彼らの貴重な体験を自信をもって発信していけるよう支援をしていきたいと思ったからです。

帰国後、駅のアナウンスや表示など複数の言語が使われ、社会の国際化がますます進んでいることを実感しました。言葉の壁を越え、国境を越え、つながることのできる子どもたちを育てていきたいです。どこの国の人も共に力を合わせて生活することのできる子どもたちを育てていきたいと思っています。

多文化共生について思うこと

私はこれまでに20カ国以上の国を訪れたことがあります。どこの国の文化や習慣にもそこで暮らす人々の生活の知恵や工夫、大切にしているものが見られます。行く先々でその国の言葉で挨拶を交わし、自分にその習慣を取り入れることで異文化を楽しむことが



きたように思います。また日本の文化との比較も楽しいものです。異文化を知るからこそ、日本を深く味わうこともできます。

話す言葉が違っても、習慣や文化が違ってても人と人です。朝出会ったら、「おはようございます」、「グッドモーニング」、時には「アンニョンハセヨ」、笑顔で声をかけてみませんか。世界に友だちをつくる一歩となるはずです。世界には自分の知らないことがたくさんあります。知らないことを知ることはワクワクします。自分とは違った文化をもつ人が自分と世界をつないでくれます。



世界のたくさんさんの文化を楽しんでみませんか。私たちは1つの地球に住む「地球住人」です。

編集後記

1979年に採択された国連の「国際障害者年行動計画」は、「ある社会が、その構成員のいからかの人々を閉め出すような場合、それは弱くもろい社会なのである」と述べています。これは、障がい者に限らず、日本在住の外国人に対しても言えることではないでしょうか。

私たちは、国籍や文化の違いに左右されることなく、同じ三田市に住む者同士として、自然につながり合うことができるような信頼関係や人間関係（社会的ネットワーク）を作りあげていくことをめざします。